

リーディングDXスクール事業【実践事例】

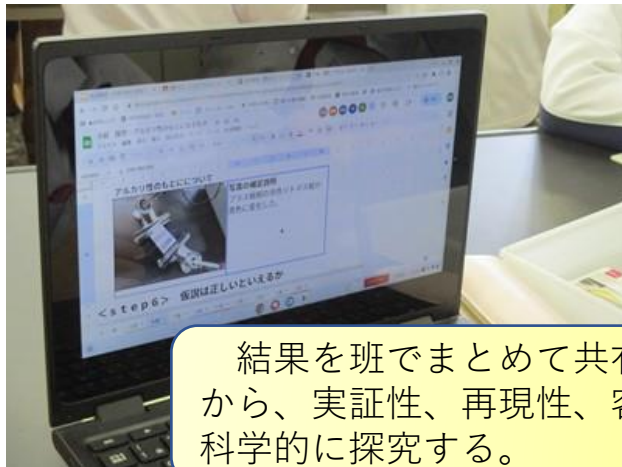
相模原市立中野中学校（神奈川県）

【取組内容①-1】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ・資料の蓄積と学びの共有

実験結果の考察をICTでまとめる生徒もいれば、紙にまとめる生徒もいる。自分の最適な方法で、記録を残す。



【個の学びの時間】
自分の演奏を動画で撮影し、何度も確認をする。



結果を班でまとめて共有をする。そこから、実証性、再現性、客観性をもって科学的に探究する。



【協働的な学びの時間】
考えを共有しながら新たな考えを構築する。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

相模原市立中野中学校（神奈川県）

【取組内容①-2】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ・資料の蓄積と学びの共有



【複線型（自由進度型）授業での学び】
基礎課題と探究課題を設定し、生徒自ら選択して課題のまとめを行う。一人学び・協働学びを選択する。課題解決に向け、サポートを必要とする生徒は、自らの意志で教師に支援を求めることができる。

【他者参照シート】

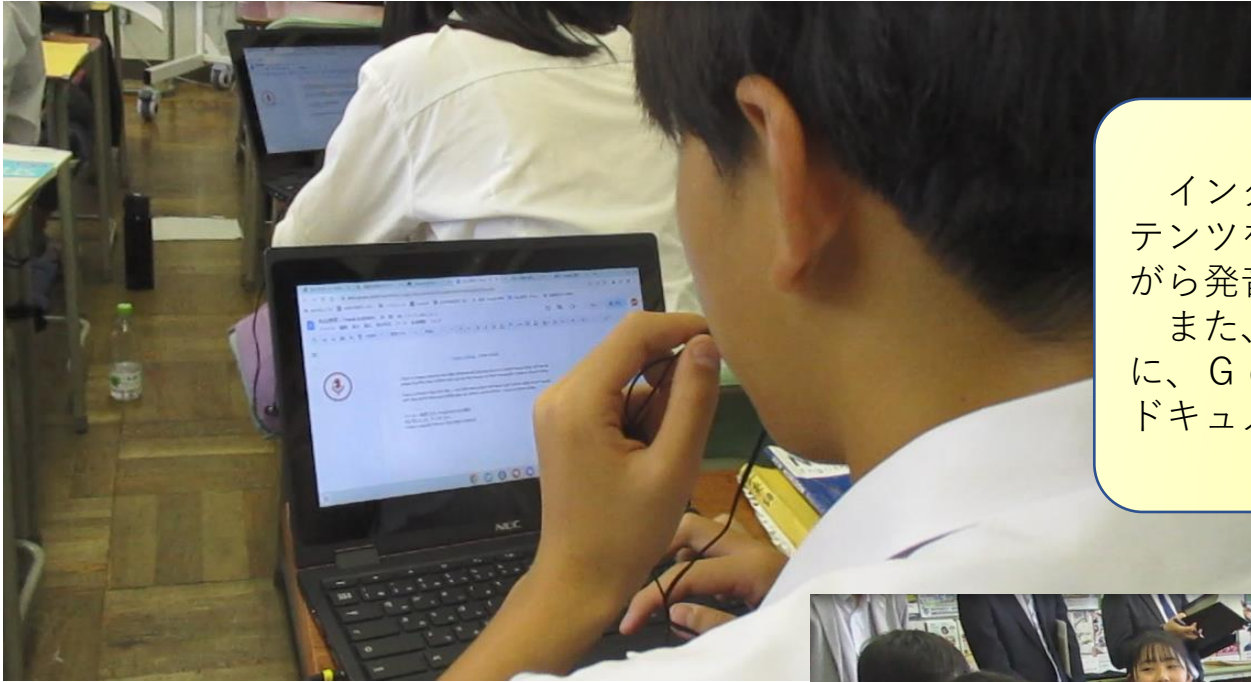
スプレッドシートで課題のまとめを共有。自分のタイミングで仲間の意見に触れることができる。教師はコメントをリアルタイムに返す。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

相模原市立中野中学校（神奈川県）

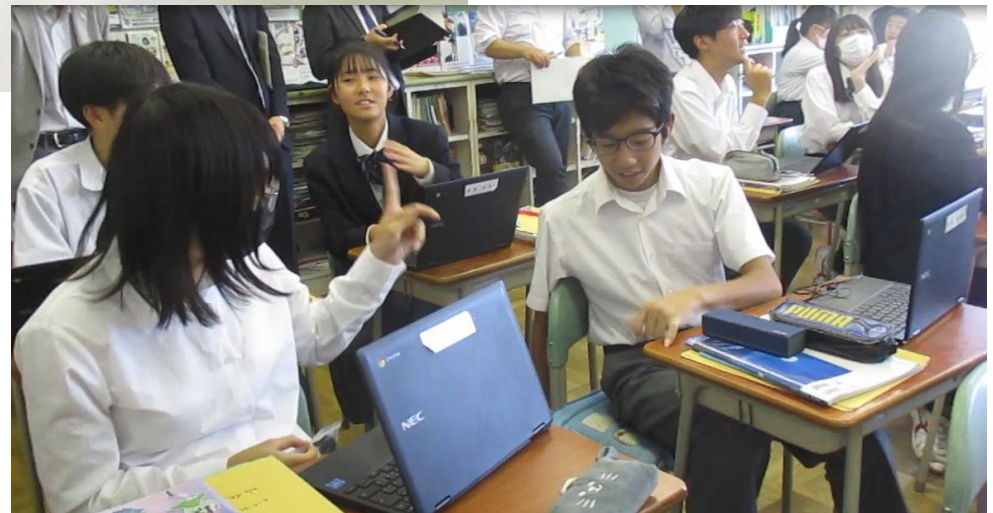
【取組内容②】「インターネット上の動画教材の活用」・A I 英会話を活用しての発音練習



インターネット上にある、無料コンテンツを活用し、A I と英会話をしながら発音の練習を行う。

また、発音の正確さを確かめるために、G o o g l e の音声機能を使い、ドキュメントに音声認識で入力する。

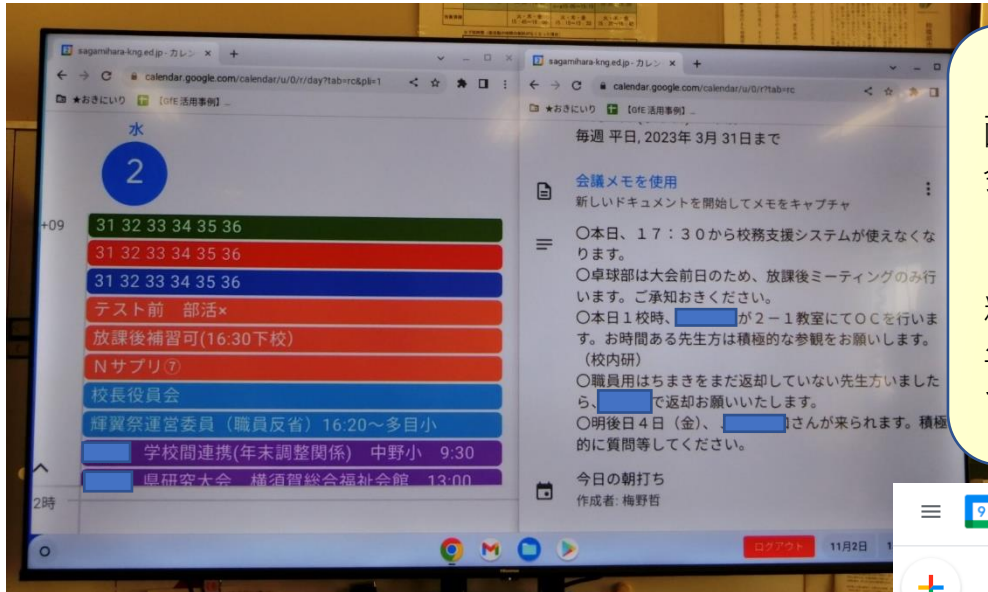
その後、近くの席の友だちと会話をする
ことで、コミュニケーション力を着実に身に付ける。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

相模原市立中野中学校（神奈川県）

【取組内容③】「職員及び生徒の情報共有」・見通しをもった主体的な活動の促進



職員室のテレビに、その日の予定を表示。画面左側の色つきの部分は時間割や出張、会議の予定などが映される。右側はその日の詳細な打合せ事項を表示し、さらに必要な情報はリンクを貼って資料閲覧ができたたり、下の画像のように、学年ごとのカレンダーに貼り付けられたりしている。

職員カレンダーに入力された事柄から、各学年に関わるものや臨時の委員会・部活動の集まり等を入力し、生徒は登校後にカレンダーを開いて一日の見通しをもつ。生徒の主体的な取組（見通し、情報収集）を促すことによって担任が事務連絡をする必要がなくなり、生徒との関わりに時間を割くことができるようになっている。

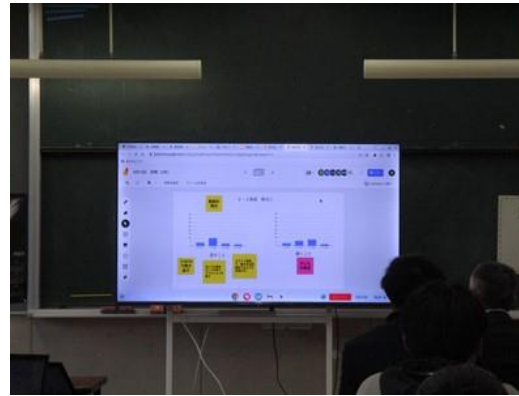


リーディングDXスクール事業【実践事例】

相模原市立中野中学校（神奈川県）

【取組内容④】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」

・「学びのスタンダード」をベースとした授業改善と学びを深めるために効果的なICTの活用



中野中学校では、校内研究を通して、ICTの活用を推進してきた。ただし、ICTを活用することを目的とするのではなく、ICTを活用することで、各教科等の資質・能力を着実に身に付けることを目的として授業改善を行っている。

データ集計や結果分析の場面でも、ICTの効果は大きい。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

相模原市立中野中学校（神奈川県）

【取組内容⑤】「その他（実践内容を地域内外に普及するための具体的な取組等）」

・県外からの視察と情報交流



7月4日に茨城県那珂市、10月20日に北海道三笠市の方が視察に来られた。

中野中学校の授業を3時間参観後、双方の市の取組や学校の様子、進め方など、情報を交流した。